2012 年度オランダ FD 研修報告

お茶の水女子大学
大学院人間文化創成科学研究科
理学専攻情報科学コース
戸次大介

2013 年 10 月 17 日から 2013 年 11 月 4 日まで、オランダの三大学を廻る FD 研修に派遣して頂いた。筆者の専門は数理言語学(mathematical linguistics)と呼ばれる、数理論理学、理論言語学、計算機科学、言語哲学の複合分野である。日本の研究者のみならず、アメリカの研究者でさえ、バックグラウンドによってその四分野のいずれかに偏り、二つ以上の分野に精通する研究者は少ない。しかし、オランダからはそのような分野横断的研究者が数多く輩出されており、筆者は以前から、オランダの数理言語学分野の教育体制に興味を持っていた。

１．アムステルダム大学

第一の訪問先は、アムステルダム大学である。アムステルダム大学には ILLC (Institute of Logic, Language and Computation)という数理言語学の世界最高峰の拠点の一つが存在し、Logic and Language グループ、Logic and Computation グループ、Language and Computation グループという三グループからなる。筆者は 10/17 に Logic and Language グループのセミナーで研究発表を行い、ILLC との今後の研究協力の可能性を探ると共に、ILLC における文理融合教育の実情について教員、学生達と議論した。

写真 1　アムステルダム大学 ILLC

２．ティルブルフ大学

日本学生支援機構(JASSO)のショートビジット(SV)プログラムにより、本学の（筆者の研究室の）大学院生二人がティルブル

写真 2　ティルブルフ大学 TiLPS

フ大学の Reinhard Muskens 先生の研究室に滞在中であった。その視察を第一の目的としつつ、Muskens 先生と今後の長期的な研究協力の可能性について、さまざまな方向から検討させて頂いた。また、10/25 には大学院の授業”Seminar in Logic and Language”において”Dependent Type Semantics: the framework”と題する講演を行った。

３．ユトレヒト大学

10/26 にはユトレヒト大学を訪問し、筆者がオーガナイザを務める国際学会 LENLS (Logic and Engeneering of Natural Language Semantics)においてお世話になっている Rick Nowen 先生のもとで、招待講演を行った。

ユトレヒト大学では humanity の学科に Cognitive Artificial Intelligence（認知人工知能）学科が併設され、一種の複合領域となっているのだという。

写真 3　ユトレヒト大学

４．まとめ

数理言語学のトップ拠点であるオランダの大学においても、文理融合教育というものが戦略的に行われているわけではないようである。むしろ、学部のカリキュラムは日本の大学と大差ない。あくまで大学院において、各教員の世界的な名声をもとに、世界中から数理言語学を志向する優秀な学生が集まっているのであると感じた。大学の文理融合教育、国際化、いずれも教員の国際的な研究が要であると肝に銘じ、研究室の学生達とともに精進したいと思う。

最後に、このような貴重な経験を与えて頂いた本学の FD 研修制度、および学科の先生方に心から感謝したい。